



▲トンボ池 ゲンゴロウやハッチョウトンボなどの姿が見られます



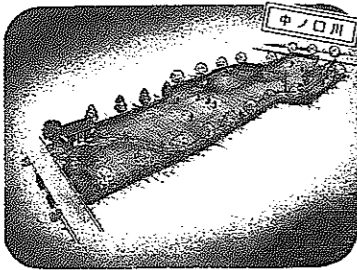
▲円通庵

大切さを市民に理解してもらったこと、自然を残しながらも人々が親しめる河川環境の整備を行っていくことを今後の活動につなげていきます。

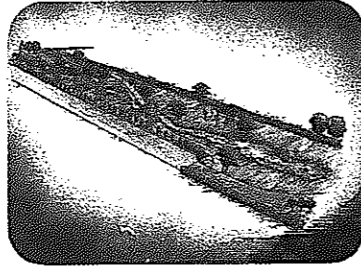
「新飯田プロジェクト」

落ち着いた町並み、伝統的な祭りと歴史で知られる新飯田地区。果物などの農作物が実り、中ノ口川にも近く、町と田園と水辺の要素がすべてそろっている環境にあります。新飯田プロジェクトでは地域の特色を生かし、住民が中心となって住みやすいまちづくりをしていくと活動

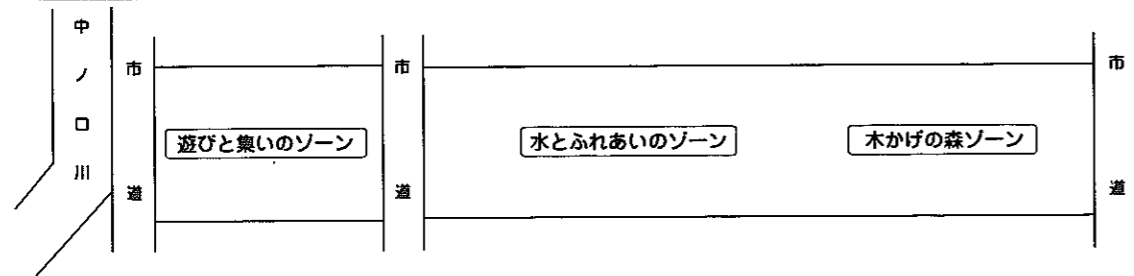
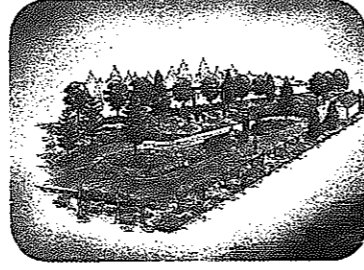
遊びと集いのゾーン



水とふれあいのゾーン



木かげの森ゾーン



●市民参加型の公園づくり

新飯田地内の旧新飯田用水路跡地に農村公園が建設されます。敷地面積は5,864平方メートル、総事業費はおおよそ1億円程度を見込んでいます。

白根市では初めて地域を挙げての公園づくりを目指したもので、住民参加型事業です。これまでも2回の協議を開き、地元の人たちの意向を反映させてきました。

名称は「ふれあいパーク 有願の里」。地域の人たちから募集したもので、56件の応募の中から3人の作品が候補に挙がり、どの名称も甲乙つけ難く3者の了解を得ての合作となりました。この名称は、新飯田にゆかりのある有願和尚の住んだ里ということで、だれ

新飯田地区農村公園

とも触れ合える公園、新飯田に触れ合いのある町にしたいという希望を込めて名付けられました。

公園はトンネルのある築山、子供用の遊具などを配した遊びと集いのゾーン、長さ105メートルのせせらぎなどを配した水とふれあいのゾーン、野外テーブル、アーチなどを配した休息スペースの木かげの森ゾーンと3つの触れ合いの場が建設される予定です。

完成は平成13年4月の予定。完成後は新飯田地区の皆さんが、公園の管理・運営を行っていきます。

名称募集の採用者は次のとおりです(順不同、敬称略)。
【採用者】大野ヨシ(横町乙)、塩原信子(上吉上)、浅生田智史(上中村)

②円通庵周辺整備

古くから住民に親しまれてきた円通庵の門や塀周りを整備し、舗装や植栽などを行うことでふるさとの史跡を守っていきます。

③新飯田まちなみ整備

商店が並ぶメインストリートに「まちなみシンボルロード」とし、景観を意識した舗装材を取り入れ、段差を無くすなどの人に優しい道路づくりを進めます。また、集会所や消防小屋を一体化したポケットパーク整備を進めます。

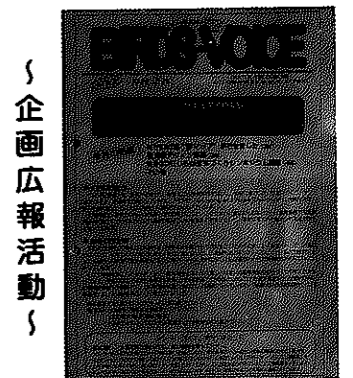
④実りの市場整備

新飯田自慢のフルーツの素晴らしさを多勢の人たちに知ってもらうため、国道8号沿いに交流の場を設けます。そこから、果物などの農産物を利用した新商品の開発やビジネスチャンスを広げます。

⑤農村公園整備

平成十年度設計実施の農村公園整備(十一年度～十二年度整備実施予定)に、新飯田プロジェクト部会の提案が取り入れられました。地域住民が積極的に参加した公園づくりとなっています。

新飯田プロジェクトの今後の活動計画としては、あかねの里構想を推進継続していきます。さらに、建設省所管の「街なみ環境整備事業」導入に伴い協議会組織を設置し、住民と共に住み良い魅力あるまちづくりを目指し、地域活性化のために検討を進める予定です。



企画広報活動

● 風見橋塗り替えデザインコンペ開催

約四半世紀にわたって風合戦のにぎわいを見守ってきた風見橋のペンキもはげ、橋の塗り替えが必要となったことから、デザイン案を募集しました。その結果、ざん新な感覚で風合戦を強くアピールする、白根市鰯濁在住の伊藤栄一さんの作品が採用されました。

● バードボイスの発行

まちづくりに対する市民の参加意識を高めてもらうために、まちづくり情報誌「BIRDS VOICE (バードボイス)」を発行。HOPE計画推進委員会の活動をお知らせしてきました。

HOPE計画推進

委員会からの提案

白根市HOPE計画推進事業は平成十年度で終了しました。将来にわたって市民と行政が一体となったま

ちづくりを進めるためには、モデルプロジェクトの継続をはじめ、HOPE計画で生まれたまちづくり活動を今後とも継続していくことが課題となります。

＜各地域活性化の促進＞

委員会はまちづくり活動の活性化を進めていくためには、次のようなことを提案しています。

- 市民がまちづくりに対して関心をもち、みんなが参加する意識を高めていくこと。
- まちづくりの中心となる人材を育てていくことや、まちづくりに関する情報を伝えていくこと。
- 市民同士や市民と市とのコミュニケーションの場をつくること。

＜全体的なまちづくりのため＞

委員会は、HOPE計画の活動を継承し、行政や商工会などの関連組織やほかの団体との連携をとれるよう「しろねまちづくりネットワーク(仮称)」設立を提案し、この機能としては次のようなことを挙げています。

- 各地区のまちづくり組織を支援し、連絡窓口となる。
 - まちづくりのための情報提供や相談を行う。
 - 市民が自由に意見を語り合えるようなまちづくりシンポジウムの開催。
 - 市民ボランティア活動の支援。
- 将来的には、市民が中心となってまちづくり活動の自主的な運営・取り組みを行っていくことが理想であるとしています。